

2020年11月10日

大学評価学会第59回研究会の開催について

大学評価学会の青年期の発達保障委員会の企画で、下記のように研究会を開催します。皆様のご参加をお待ちしております。よろしくお祈いします。

1. 日時 2020年12月5日(土) 13:30~15:30

2. 場所(方法) Zoom ミーティングによるオンライン開催とします

3. 参加申込み オンライン開催のため、必ず事前に参加申し込みをお願いします。

参加申込み締め切り: 2020年12月4日(金曜) 16時半まで

※ 「参加したいがギリギリまで予定がわからない」という方も、申込フォームにその旨をご記入の上、申込みをお願いします。

参加申込みフォームは [こちらをクリックしてください](#)。

※ 申込みいただいた方のメールアドレス宛に、12/4日(金)に Zoom ミーティングアドレスなどの情報をお送りします。

※ こちらの QR コードからも参加申し込みフォームをご利用いただけます。



4. 研究テーマ 「青年期の発達と学びを考える ～ 当事者が語る高大接続課題 ～」

(1) 教育内容の高大接続

高校に入学してから自己の進路についてどのように考えていったか、必ずしも一直線ではなく、様々な迷いや葛藤があったと考えられる。高校卒業後の進路について、具体的な輪郭が描けるようになったのはいつ頃だったのか振り返りながら、大学での専門性をどのように意識していったのか検証を試みる。その際、高校の授業で学んだことが進路選択にどのように活かされたのかあるいは活かされなかったのか、教育内容の高大接続を考える手がかりとしたい。

(2) 大学での学びと青年期の発達

また実際に大学に進学し、イメージしていた学びが実現出来ているのかいないのか、その要因は何かを明らかにし、青年期の発達と学びについて解明する一助にしたい。また、大学での学びからどのように自己成長出来たか、今後の自己のキャリア形成をどのように考えているかを報告者が語ることで、青年期教育の課題を明らかにしたい。

5. 報告者

(1) 高橋 日向子 さん (東京外国語大学1年)

高校生活のどの段階、どのようなきっかけがあって大学で語学を学びたいと思うようになったのか。受験の支えになったのはどのようなことだったか。高校と大学での学びは自己の中ではどのようにつながっているのか。コロナ禍での大学生活の中で考えたことや自主ゼミを立ち上げたこと、これからの大学生活の夢などを中心に報告する。

(2) 石岡 諒也 さん (早稲田大学政治経済学部3年)

高校生活を振り返って、進路意識が明確になっていったのはいつ頃だったか。自己の適性をどのように伸ばしたいと考えたか。大学に期待するものは何だったか。大学に入るために友人とどう切磋琢磨し、それが自己と他者にどのように活かしたか。大学に入学して自己の可能性は広がったか。アメリカ留学で得られたことなどを中心に報告する。

(3) 檜村 祐志 さん (学習院大学大学院修士課程2年)

高校生の時には、どのように将来の職業を考え進路選択をしたか。高校の授業と大学での学びは、自己の中では接続していたかどうか、教育課程から考察する。修士課程への進学を決意した理由。研究する中でどのような自己成長や研究の深まりがあったか。今考えている研究テーマとその理由。今後の研究課題と自己の将来展望等を中心に報告する。

6. 研究会のスケジュール

- 13:30～ (1) 始めに研究会の趣旨説明 (西垣順子・大阪市立大学)
- 13:40～ (2) 報告者の紹介・報告趣旨説明 (小池由美子・上田女子短期大学)
- 13:45～ (3) 報告 (一人15分程度)
- ①高橋さん
 - ②石岡さん
 - ③檜村さん
- 14:30 (4) 質疑応答
- 14:40 (5) 研究協議
- 15:10 (6) 報告者から一言まとめ
- 15:20 (7) まとめ (西垣)
- 15:30 終了
- *司会 (小池由美子)

【謝辞】本研究は、科学研究費補助金・基盤 (A) 「「学習指導要領体制」の構造的変容に関する総合的研究」 (研究課題番号 20H00103、研究代表者: 植田健男、期間: 2020年度～2024年度) の助成を受けて実施する研究の一部である。